

授業科目	政治学史演習
演習題目	「古典」と「教養」の世界
担当教員	木村俊道
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・本演習では、古代ギリシアから 20 世紀に至る政治思想の「古典」を講読します。 ・これらの「古典」と実際に対話する作業を通じて、学問的な思考の「型」や「わざ」を身につけ、歴史や思想の観点から、「政治」の理解や市民としての「教養」を深めることを目指します。 ・以上の「稽古」を積み重ね、論文の執筆にチャレンジします。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・時代に流されることなく、「政治」や「法」の問題を深く地道に考えてみたいと思った方。 ・一人で読むのは難しい「古典」に挑戦してみたい方、学問的な「基礎」や「作法」をしっかり身につけたい方など。 ・サブゼミ希望者やオブザーバーも歓迎します。
教科書・参考書	<p>【テキスト】 授業の計画・内容を参照。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木村俊道『西洋政治思想の文脈』放送大学教育振興会、2025 ・木村俊道『文明と教養の＜政治＞—近代デモクラシー以前の政治思想』講談社選書メチエ、2013
授業の計画・内容	<p>◆ 古典を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26 年度に読む「古典」の、現時点での候補は以下の通りです。いずれも、これを読まずに卒業してはいけない（と思える）クラシカルなテキストです。 <ol style="list-style-type: none"> 1) プラトン『ソクラテスの弁明』『ゴルギアス』『国家』岩波文庫ほか 2) マキアヴェリ『君主論』池田廉訳、中公文庫、新版 2018 3) バーク『フランス革命についての省察』二木麻里訳、光文社古典新訳文庫、2020 4) 福沢諭吉『文明論之概略』岩波文庫、1995 <p>どれを読むかは初回に参加者と相談のうえ決定します。前後期で各 1 冊 + α を取り上げます。</p> <p>※過去の例 25 年度 バジヨット『イギリス国制論』、オルテガ『大衆の反逆』、 24 年度 リップマン『世論』『幻の公衆』、デューイ『公衆とその諸問題』 23 年度 トクヴィル『アメリカのデモクラシー』 22 年度 マキアヴェッリ『ディスコルシ』</p> <p>◆ ゼミ論 (or 書評) を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本演習ではまた、1 年間の集大成として、ゼミ論文の執筆が求められます。夏休み前後の計画・中間発表と段階を踏み、年度末に書き上げ、

	<p>提出します。ただし、サブゼミの方は、書評などのゼミ論以外の選択も可能です。</p> <p>※25年度の論文・書評のテーマ 大衆社会論におけるエリートと民主主義、リースマン『孤独な群衆』と政治意識、モンテーニュ『エッセー』における政治と宗教、エドモンド・バークと革命の是非、カーライルの英雄崇拜論、J.S.ミルにおける一般教養と大学教育、ミルによる「最善の統治形態」、E・H・カー『危機の20年』</p> <p>※24年度の論文・書評のテーマ カール・シュミットと政治紛争、アーネスト・メイとアメリカ政治学、民主主義と教育、プラトンは全体主義者か</p>
成績評価の方法	<p>・通常のゼミに対する取り組み方（報告や討論への参加、ゼミ運営への貢献等）、およびゼミ論文（もしくは書評等）により総合的に評価します。</p>